



第19回三澤勝衛先生記念文庫連続講座「八島ヶ原湿原を巡る」実施



霧に包まれる八島ヶ原湿原（手前は、八島ヶ原池 中央は湿原 奥は物見石方面）

8月22日（土）森川一成先生（諏訪圏学校理科教育振興基金助成審査委員）を講師にお迎えして、第19回三澤勝衛先生記念文庫連続講座「八島ヶ原湿原を巡る」を一般公開で実施しました。森川先生には今年4月の第17回講座でも「八島ヶ原湿原について」という題でご講演いただいております。今回は野外に出て実物を観察しながら講義していただきました。

当日は本校生徒を含む15名余の参加者で4時間余りかけて湿原の周囲を歩き、日本における代表的な高層湿原である八島ヶ原湿原の成り立ちや、湿原に特有の地形、動植物について学習しました。朝は深い霧に包まれていた湿原でしたが、歩いているうちに霧が切れ全容を見渡すことができるようになり、八島ヶ原池周辺では、泥炭がお皿を伏せたように盛り上がった**高層湿原特有の構造**や浮島を観察することができました。また、諏訪湖から湧き立ち**湿原を覆っている霧**が、流れ込む水が少ない霧ヶ峰の環境において、湿原を維持する重要な要素となっていることも観察できました。



遊歩道から鎌ヶ池方面を望む。湿原の周辺部は乾燥化が進行しており、ヤマドリゼンマイなどが筋状に生えている。

巡検では自然観察のみならず、湿原周辺の史跡の解説も受けました。湿原の南東にある**旧御射山（もとみさやま）史跡**の一角は、現存する**日本最古の棧敷席を持つ野外競技場**で、鎌倉時代から全国の武将がこの場所に集い、御射山祭と呼ばれる流鏝馬（やぶさめ）などを競った場所であることを知り、参加者一同、古の湿原周辺の景色に思いを馳せました。

地形的に史跡の最も底にある祠から、南側の斜面を見渡すと**競技場の棧敷席といわれる階段状の地形**を確認することができました。

本校SSH事業（平成22年度指定）では、三澤勝衛（1885 - 1937、地理学者、本校元教諭）の科学教育に光を当て、その原点に立ち返り、将来に向かって活かすことを目的としており、その取組みの一つとして連続講座を開催しています。三澤は、野外調査を重視し、生徒たちにも実地観察と自分の頭で考える大切さを教えました（Wikipediaより）。

彼の教育観の一端は、「教えるのではなく学ばせるのである。その学び方を指導するのである。」「自分の頭で考えろ。そのために実物に触れろ」という言葉によく示されているといわれます。講座を受講した生徒には、連続講座を通して自然現象の中に自ら課題を見出し、適切な方法で課題探究を進めることに生かすように助言しています。

今後も、いろいろな分野の講師をお招きして連続講座を実施する予定です。

次回第20回連続講座は、10月10日（土）に田中俊廣先生をお招きして「断層を巡る（フィールドワーク）」という題で、野外に出て諏訪盆地を形成した断層をたどりながら、断層地形の見方や、断層にまつわるお話をお聞きする予定です（詳細は本校Webページ参照）。



棚田のような棧敷席